



俺たち

寒河江市

地域おこし協力隊！

地域おこし協力隊って？

「地域おこし協力隊」とは、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みのことだ。活動期間は最長3年で、自治体によってその活動内容や条件等は様々だ。今回は、寒河江市の地域おこし協力隊について紹介する。

寒河江市地域おこし協力隊

寒河江市では、地域おこし協力隊の制度を活用して、地域農業の支援をしながら、就農に向けた知識と経験を身に付けたい人材を募集し、現在3名が活動を行っている。出身や就任のきっかけはそれぞれである。

森川宏輝さんは東京都出身で、広告代理店の営業として働いていたが、果物が好きで、自分で作ればいくらでも自由に食べられると思い、農家を志した。多くの農家さんと関わりながら経験を積んでいきたいと思い、寒河江市の地域おこし協力隊を選んだという。福田周平さんは神奈川県出身で、飲料メーカーの営業をしていたが、寒河江就農体験ツアーに参加して、ちょうどいい田舎だと感じたため、寒河江市を選んだとのこと。小林勇氣さんは青森県出身で、四国遍路で出会った農家に憧れ、一念発起して大学を中退。自分の興味のある作物を自由に選んで活動できることが決め手となり、寒河江市を選んだそうだ。

彼らは農作業支援のほかに、様々な活動を行っている。その活動内容を次のページで紹介する。

地域おこし協力隊の活動

農作業補助（農業研修）



森川 宏輝さん

興味のある作物を作っている農家と、自分でアポイントメントをとって、農作業の補助をする。

一緒に農作業することで、作業の流れを知ることができますし、自分で管理した作物ができたときに喜びを感じることができます。

野菜の販売会



福田 周平さん

地元農家さんが作った野菜や果物を売る販売会を市内外で行っている。

私たちは、自分で作った野菜や果物は売ることがまだできませんが、地元農家さんがつくったものが売れた時はとても嬉しいです。

復旧支援



小林 勇氣さん

被災農地の復旧支援として、畑に流れてきたごみや土砂を取り除く作業を行った。

今年8月に降った大雨によって最上川が氾濫し、畑が被害を受けました。私たちは、この作業を通して、災害の恐ろしさを痛感しました。

この他にも、学校で食育授業や、Twitterなどで情報発信などを行っています。

3人の今後

現段階では、森川さんはさくらんぼとラ・フランス、福田さんはもも、小林さんはぶどうをメインに農業をし、他に何を作るか考えていきたいと話していました。

自身の就農に向けて励む3人の今後の活躍に期待です！